

熊本地震に関して、神戸大学の二人の研究者の講演会を企画しました。熊本地震のメカニズムや阿蘇山との関係、また被災地の現状についてご講演をいただきます。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

**5月28日(土)13時30分講演開始(13時開場)**

**於:神戸大学百年記念館六甲ホール**

阪急電車「六甲」駅、JR西日本「六甲道」駅又は、阪神電車「御影」駅から市バス36系統「鶴甲団地」行に乗車  
「神大文・理・農学部前」下車。

**先着:200名**

**講演1:13時30分—14時10分**

**地震大国火山大国ニッポンに暮らす覚悟  
巽 好幸(神戸大学教授, 海洋底探査センター長)**

また列島が揺れた。4月14日夜の前震と16日未明の本震(M7.3)は震度7、それ以降も震度3以上の余震は300回を超えた。さらに震源域には「札付き」の活火山阿蘇山が位置し、16日に噴火が起きた。なぜこれほどまでに日本列島は私たちに試練を与えるのだろうか? こんな地勢に暮らす私たちは、どのように列島と付き合っていけばよいのだろうか?

**質疑応答:14時10分—14時20分**



**講演2:14時30分--15時10分**

**熊本地震による地盤震動と住宅被害**

**長尾 毅(神戸大学教授, 都市安全研究センター)**

熊本地震では益城町を中心に住宅被害が多発した。本公演では、住宅被害の程度と地盤条件の関係について述べる

**質疑応答:15時10分—15時20分**



**閉会挨拶:15時20分-15時30分  
齋藤政彦理学研究科長**

後援:神戸大学